

ひろば

優良公民館紹介

第65回優良公民館 大分市大分西部公民館 (文部科学大臣表彰)

勢いのある

公民館を目指して



大分西部公民館は、別府、由布両市と接し、山・川・海、古い町、多くの団地と、いくつもの顔を持つ地域のほぼ中心に位置する。新装成る大分駅とその南区域の激変や、高架の完成を、家並みの上を走る電車の姿で実感という昨今。

壬申の乱に関係した「大分の君」の墓と目される古宮古墳や、中世大友の時代から続く柞原八幡の放生会、勢家は中世木材の集散地であったように、古い歴史を持つ地域である。

春日町小学校など、5つの小学校と王子・大分西の2つの中学校、国立附属小・中学校を抱え、公民館事業との連携も密である。

昭和43年から大分大学の建物を公民館として再利用してきたが、老朽

化に伴い、平成6年に南側へ新築移転した。爾来、主として5校区地域の45,000余人を対象に18年間、「勢いのある公民館」づくりに邁進している。

教室、講座では幼児や母親から青年、60歳70歳代と幅広い年齢層の方々が、実に沢山の学び・活動をしている。青少協や自治会が結集した「わくわく、ワンダーランド」では多様なワークコーナーを提供して、楽しんでもらっている。

経験豊かな館員を核に、スタッフ全員の参画で、「日々新たに！」を旨として、磨きなおしや更新を熟議している。講師の発掘やジャンル開拓を共通の課題としているが、「わくわ

くふれあいコンサート」での「分大医学部交響楽団」と「附属合唱部」の新たな登場や、「ピストロ西部(多国籍料理探求)」、「実践介護講座(西部包括支援センターと連携)」、「歴史への招待(府内や大友、西大分の歴史)」等々新たな講座はその刷新の一例である。

運営審議会委員の皆様適切な助言をいただきながら、校区公民館との連携を重視し、西部全体の子ども育成、青壮年から高齢者の人生充実、自治区の自治力涵養に寄与してゆきたい。

平成24年度、第64回優良公民館として文部科学大臣表彰の栄誉に浴したことを機に、地域住民の方々にとって壁の低い、心地よい、勢いのある公民館づくりに邁進しようと、館員全員で確認し合っているところである。



語った！ 考えた！

～平成24年度 新任職員研修会・館長主事研修会の様子～

大分県公民館連合会では、新任職員研修会と館長・主事研修会を毎年開催しています。これは、公民館関係者が一堂に会し、研修をとおして公民館職員としての資質の向上と相互の連携を図ることを目的に開催しています。

今年度は、それぞれのテーマのもと、新任職員研修では、公民館の役割を学び、実際にプログラムを作ってみました。また、館長・主事研修会では、防災・減災についての熟議に取り組みました。



県公民館新任職員研修会

- 期日 平成24年6月14日(木)
- 会場 県立社会教育総合センター(別府市)
- 参加者数 57名
- テーマ 人づくり・地域づくり拠点としての公民館の役割
- 参加者の声から
 - ◆ 各館の抱える事情を伺い、様々な環境・地域性を知りました。
 - ◆ 中津は「一公民館一人館長」ですので、同じ悩みを持つ仲間たちと話し合えたのはよかったです。
 - ◆ 研修会に臨み、活力(元気)をいただきました。
 - ◆ 課題からプログラム作りを実際に共同して作っていく作業がとても参考になった。自分の地域でもいかなる内容だったのよかったです。
 - ◆ 話を聞いて、参考になる部分が多く、ためになりました。



県公民館館長・主事研修会

- 期日 平成24年7月13日(金)
- 会場 県立社会教育総合センター(別府市)
- 参加者数 59名
- テーマ 防災・減災のために公民館ができること
- 参加者の声から
 - ◆ 多様な地域の公民館事情が知れて視野が広がった。
 - ◆ 避難所には弱者の方が多く避難されると思うので、万が一を想定し公民館の運用を再度考えたい。
 - ◆ 熟議はおもしろかったです。
 - ◆ 具体的な方策・アイデアがでたことはためになった。
 - ◆ 情報交換と熟議が混在し深まりが今一歩だった。どちらも中途半端に感じたので、一考をお願いしたい。



平成25年度は今年度の反省をふまえ、情報交換だけでなく、公民館が抱える課題解決への行動につながる熟議を開催する予定です。ぜひご参加ください。

～熟議虎の巻～

★やってみよう！熟議★

◆熟議とは…

「熟議」とは、さまざまな立場の人たちがあるテーマについて、「熟慮」と「討議」を重ねながら、解決法などを形成していこうとするプロセスのこと。「熟議」は参加者全員で本音を言い合って相互に理解を深め、共通の課題を発見し、参加者の行動へとつなぐきっかけとするものです。

◆なぜ、公民館で熟議？

公民館はこれまで、話し合いの学習スタイルを実践してきましたが、講義型学習も多く、最近では交流や話し合いが生まれにくい状況もあります。熟議がきっかけとなり、公民館がいろいろな人たちの話し合いの場となり、これからの公民館の役割を見つめ直したり、地域の課題を解決する一歩を踏み出したりすることができるのではないのでしょうか。

◆テーマはどう決めたらいいの？

参加者共通の課題からテーマ設定を行います。主催者が事前にテーマを決めておく場合と参加者が当日テーマを熟議して決める場合があります。

◆どう進めるの？

熟議ファシリテーターを決め、そのファシリテーターが参加者の意見を引き出しながら討議を進めていきます。具体的に、「必ずこういう形でやらなければならない」というルールはありませんが、下記にその例を紹介します。

熟議の進め方（例）

（月刊公民館 2012年10月号「公民館熟議のススメ」 文部科学省生涯学習政策局 社会教育課長 伊東 学司氏寄稿 より）

- ① 議論を始める前に、テーマについての基礎的な学習を行い、知識・情報を共有する。
- ② 付せんを使って参加者それぞれが思いつく課題の洗い出しを行い、それを模造紙上に類型化する。
- ③ 類型化された課題に対し、参加者それぞれが付せん（課題の付せんとは別の色）を使って、解決策を提案する。
- ④ 提案された解決策を、模造紙上に類型化された課題ごとに整理しながら、参加者間で多面的な議論を行う。
- ⑤ こうした議論をファシリテーターが適切にコーディネートしながら、より多くの参加者が納得できる解決策に収れんしていくよう議論を整理していく。

参考資料：

文科省政策創造エンジン「熟議カケアイ」<http://jukugi.mext.go.jp/>
月刊公民館 2012年10月号「特集 公民館で、熟議を！」

「熟議 in 公民館プロジェクト 2012-2013」募集中！

全国公民館連合会（以下：全公連）では、公民館で「リアル熟議」を開催すると「1熟議1万円」を助成しています！詳細は全公連HPから→<http://www.kominkan.or.jp/index.htm>



●平成24年10月23日（水）
於：臼杵市（臼杵市中央公民館）

●大会テーマ
「地域の活力を生む公民館
～人と人を結び、人を育てる
公民館活動のあり方について～」



分科会報告

第1分科会「公民館の管理運営」

テーマ「これからの公民館に求められる望ましい管理・運営の在り方」

【主な意見】

- ・他部局との連携による運営は、行政だけでなく住民にとっても有効である。お互いの理解の上に進めることが今後は大切である。
- ・平成20年4月の中教審答申等でも挙げられているが、公民館は、地域の学習拠点、人づくり、まちづくりの拠点である。よりよい市民生活やまちづくり・地域づくりのために、どのように地域課題を解決していくかが大きなテーマとなる。
- ・地域課題の把握と事業評価は重要である。今後はその事前把握と評価が、公民館活動のベースとなっていかなければならない。

第2分科会「教育の協働と地域教育力の向上」

テーマ「学校、家庭、地域社会による教育の協働を推進し、地域の教育力を向上する公民館活動の在り方」

【主な意見】

- ・公民館が支援者リスト等を作成し、学校と共有し互いに活用できるよう準備しておく必要がある。
- ・教育の協働を推進するためには、それぞれの信頼関係に基づいた連携が必要である。その上でネットワーク等を組織し協議の場を十分にもつことは有効である。



- ・教育の協働に貢献する人材育成のためには、まず地域の世代間交流も必要である。公民館が、地域内の三世代が交流できる活動や場づくりに取り組むことも役割の一つではないか。

第3分科会「人権・同和教育の推進」

テーマ「人権教育の推進と同和教育の解決をめざす公民館活動の在り方」

【主な意見】

- ・社会教育の現場は、「公民館」であり、その公民館の各種講座に人権を考えることができる内容を盛り込むことはよい。それが問題提起となり、人権講座受講生の掘り起こしにつながることもある。
- ・人権は奥深く、身近なものであるが故に、気負いなく取り組むことが公民館では求められる。
- ・PTAと連携して講座を持つことも大切である。子どもが学んだ内容を家庭でよりよ

- くフィードバックするためにも、PTAへの講座提供は大切となってくる。

第4分科会「自治公民館活動」

テーマ「活力ある地域づくりを担う自治公民館活動の在り方」

【主な意見】

- ・公設である分館の運営委員会に自治会が入っていることで、自治公民館と公立公民館の連携がスムーズにできる。地域課題である少子高齢化や過疎化に向け、連携して取り組むことが今後も重要になってくる。
- ・新規事業に取り組むことで、区としての存在感が高まり、地域住民の連帯感は一層深まる。新しく、積極的に協力しようとする人材も輩出できるのではないか。
- ・地域をどうしたらよいかという問題意識を、地域住民にどう醸成していけばよいか、今後の課題である。

全体会

基調講演

演題「地域再生と公民館」

講師 小池 源吾 氏

(鈴鹿女子短期大学保育学科長・広島大学名誉教授)



現在声高に叫ばれるようになった「地域再生」について、これまでどのような変遷をたどってきたのか、また公民館をめぐる今日的動向について述べられた。今後公民館による地域再生の可能性については未知数であるが、地域内の人・もの・金・知恵を結集させること、そしてそれを効果的に運用する仕組みづくりが必要となってくるとの示唆をいただいた。



中津地区
公民館連合会

会長 伏見 豊重

裕氏の柔道を通じた青少年の健全育成に対する教育者としての熱い志に感動した。

二日目の全体会では、鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部による優雅な山鹿灯籠の舞台を堪能し、記念講演では、オリンピック柔道金メダリストの山下泰

三様の成果と課題から明らかにしていく分科会であった。
二日目の全体会では、鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部による優雅な山鹿灯籠の舞台を堪能し、記念講演では、オリンピック柔道金メダリストの山下泰



平成24年8月30日・31日

熊本市で開催された大会に中津地区公民館連絡協議会を代表して参加した。

一日目の第1分科会では、「時代のニーズに対応した公民館の在り方」をテーマとし

た公民館の運営管理についてのシンポジウムがあった。シンポジストは松浦市立中央公民館の柴山館長、日田市五和公民館の濱田主事、荒尾市教育委員会の塚本課長の3名であった。大会運営者によるこの3館の選択が、分科会テーマをより具体化しており、参加者にとって大変わかりやすいものであった。松浦市は公立公民館、日田市は公立から公設民営化、

現在は一財団法人が指定管理者の公民館、そして、荒尾市は民間企業を指定管理者とする公民館であった。公民館への指定管理者制度の導入が是非かという議論ではなく、これからの時代に求められている地域づくりの機能を持った公民館の在り方を三者



4月から市

の組織機構改革に伴い現職に就き、公民館のあり方を模索している時に、九州地区公民館研究

大会に参加した。第7分科会は自治公民館の活動で、「豊かな地域づくりを担う自治公民館の在り方」というテーマのもと、「エコ活動で楽しく元気な明るい地域」、「高齢者生きがい作り支援事業」の事例発表があった。それぞれまったく違った視点からの取り組みで成果も見られたが、事後の討議では柱にそった話し合いまで進まず、意見交換会で終わったのは惜しい気がする。

2日目の全大会は、創部25年の熊本県立鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部の「山鹿灯籠踊り」のアトラクションで幕開けをしたが、まさに「優雅な中にも高校生らしい演技」で感動をいただいた。

2日間の大会に臨んで、これからの公民館のあり方について考えるきっかけと、別府地区公民館関係者との交流の場を持てたことをこれからの活動に活かしていきたい。助言者の『地域の「人が宝」である』からまず始めたいと思う。

国東市武蔵中央公民館

館長 伊藤 恭子

第24回 全国公民館セミナーに参加して

日田市五和公民館

館長 石井 敏明

1月23〜25日の3日間、代々木にあるオリンピック記念青少年総合センターで行われた全国公民館セミナーに参加し貴重な体験をした。そもそも2日目のカリキュラム「映画をつくらう」にひかれて参加を決意したのであるが、映画を作るの大変さ、難しさ、面白さを朝9時から夜7時までの作業で、満足できる疲れを経験した。それは心地よかつた・・・。

初対面であった8名がチーム(チーム名へこたれません)を作り、スタート時はぎこちなかった関係が終わり頃には仲間意識が生まれ、3日目のグループ活動のなんとスムーズなことか、これを公民館事業に取り組みない手は無いと感じセミナー会場を後にしたのである。

「映画をつくる」というのはつきりとしたテーマがあるのは、人を集める手段としてはありがたいことである。映画をつくる、というのはツールであり、最終目的ではなく、目的はその過程であり、其処から生まれてくるであろう意識である。仲間意識であり、地域を愛する意識であり、人と人の繋がり意識である。一つのことをみんなでやり遂げることにより次のステップが見えてくるのである。

「映画づくり」は若い人のものと思っている方は多いと思うが、そうではなく世代を超えて一つの作品を作り上げるといふ作業は完成したときに得るものは多いのである。

三日目の講座は婚活事業に関して、グループで具体的に婚活事業を考えるものであったが、そもそも婚活というものを公民館事業として行う意義が見出せないまま終わってしまった(これは私だけなのか?)。本来ならば行政がしっかりとした事業として取り組むべきではないのではと考えたのである。公民館の事業ではないような気が今でも拭い去れない。

今回のセミナーに参加をして、これからは公民館として目標を決めて事業展開をしていかないと公民館の存在そのものが問われるようになってくるのではと考えさせられた。



2日目「映画づくり」の基本的講義を受講(講師:栗山宗大)

地区公連発



豊肥地区公民館連合会

豊肥地区公民館連合会

竹田市中央公民館 主査 廣橋 秀 晃

7月12日早朝、大雨洪水警報発表による市職員の警戒体制配備のメールが来た。公民館近隣の職員に状況を尋ねると、「もう来られんで」。とりあえず地元直入支所に行き指示を仰ぐ。自身の担当地域の被害調査をし、その後竹田へ向かった。土砂崩れの影響で久住へ迂回し国道へ出ると大渋滞。やっとの思いで運動公園に着くと、避難所の対応に追われた。ぬかるみに足を取られながら公民館に行ったのはその日の夕方。すでに先発隊が片づけをしていた。建物の外観はほぼそのままだったが、その中は…。それから数日間は、猛暑の中片付けに追われた。豊後大野市の職員の方や地元消防団等の協力も頂き、何とか片付けは済んだが、未だ



施設の復旧の見通しは立っていない状況である。事務所機能は久住公民館へ引越し、各種事業も細部では変更を余儀なくされたがなんとかこなしてきた。地区公連としての活動が滞っていたが、総合型地域スポーツクラブを活用した健康づくりにより医療費を削減する取組の研修を行った。過疎化に悩む豊肥地区にとって有意義なものになるだろう。特に竹田市では中央の公民館が当面機能しない分、各地区公民館・分館での取組の参考にしたいと考えている。結びに、災害にあたりご支援いただいた公民館関係者各位に誌面を借りて厚くお礼を申し上げます。



日田地区公民館連合会

日田地区公民館連合会

事務局 日田市社会教育課 梶 原文 人

平成24年度の日田地区公民館連合会の取り組みとして、5月28日に総会を開催し、平成23年度の事業・決算・監査報告及び平成24年の事業計画、予算を決定した。公民館職員・関係者の合同研修として、去る1月17日に研修会を開催した。研修内容の選定にあたっては、昨年の豪雨災害などによる防災意識の高まりを考慮し、公民館でも、高齢者の利用時や、青少年の野外活動時には、怪我などの心配があるため、「救急救命法」を学ぶことが適当であると考え、講師に日本赤十字大分支部より派遣を受け実施した。参加者は、講義とともに、実際に三角巾や毛布を使って、けが人の応急処置、非常時の対応、使用法などを学んだ。特に、三角巾では、頭部や腕部、足部などの負傷箇所の固定に非常に役立つため、受講者は熱心に何度も繰り返し、使用方法を学んでいた。多くの住民を受け入れている公民館としては、いつ緊急場面に遭遇するかわからない状況であるので、一度だけでなく、回数を重ねて研修することで、安全・安心な公民館運営を目指していきたい。



大南公民館

大分市大南公民館
社会教育主事 庄 秀幸

大南公民館は、昭和56年の開館以来、生涯学習の拠点として、多くの地域住民に利用されてきた。近年では「地域づくりの拠点」としての機能を高めるべく、地域に貢献できる人材の育成に力を入れている。今回はこのような視点に基づいて、今年度実施された2つの講座を紹介したいと思う。

○「手作り甲冑教室」(全20回、定員15名) 厚紙で甲冑模型を作る教室。地域の祭りである「大野川合戦まつり」を盛り上げる目的で開設した。5月～10月の5ヶ月間で、受講生14名が作品を完成させることができた。祭り当日の会場に特設テントを準備し、受講生の作品を展示した。厚紙で作ったとは思えないほどの出来はえて、観覧者も驚いていた。

○「大南食彩倶楽部」(全8回、定員20名) 地域の特産物を素材にした料理を学ぶ教室。講座で学んだ料理のレシピを作成し、地域に学習内容を発信した。また、大南支所を中心に企画した「ウオーキングin戸次」に、受講生16名がボランティアと



して参加し、講座で学習した「芋入り饅頭」200個を作成して、参加者に配布した。この二つの講座を構築するにあたり、大切にしたいことは、「講師には地域人材を活用する」「学習内容を地域から探る」「学習成果発表の場を地域につくる」の三点である。まだまだ手探りの状態ではあるが、地域づくりに貢献できる公民館を目指し、今後も努力を続けていきたいと思う。



佐伯市 本匠地区公民館

佐伯市教育委員会社会教育課
副主幹 渡邊広樹

佐伯市では本匠地区公民館を含む旧郡部の8地区公民館は、24年度から市の行財政改革により各公民館で執務していた社会教育担当者(正規職員)が姿を消し、新たに嘱託職員(社会教育推進員)が公民館事業を行うことになった。そこで社会教育事業の衰退が懸念されたが、配属となる嘱託職員はかつての経験者等から選任され、かつ本庁の社会教育課に地域の支援を行う職員4名が配属されて衰退の危機は脱することができた。

そんな変動期の中で、本匠地区公民館では、新たな体制で今までの事業を継続しつつ、過疎高齢化の中で、高齢者から青少年まで地域の人材をいかに生かし、育てていくかを大きなテーマとして、各種の生涯学習事業を行っている。

その中で、特に重点を置くのが本匠地区の将来を担う青少年の育成である。主に2つの事業を行っている。一つは、協育コーディネーターを中心に地域と学校を結び学校支援活動と、もう一つが小学4～6年生を対象に、週末等利用した体験活動として「山っこクラブ」の開催で



手作りのリモコンカーによる サッカー対決

ある。後者では年間を通じていろいろなプログラムを組んでいる。地元清流でのカヌー体験から始まり、地域の歴史文化を学ぶ地域探検、地区外に出て宿泊自然体験やまた科学に触れるリモコンカー作りなど多種多様な活動で、子ども達の豊かな感性を育てている。年々児童数が減少している中で、スポーツ少年団等の活動もあり参加者の減少傾向が悩みだが、推進員等職員みんなで知恵を出し合いながら、子ども達が大人になっても本匠のことを忘れず、いつか故郷に戻って活躍している姿を想いつつ取り組んでいるところである。



夏休み学びの教室 大学生による学習支援

表彰

大分県公民館連合会表彰

【優良公民館】

別府市西部地区公民館
豊後高田市田染公民館

【優良自治公民館】

別府市鶴見町公民館
別府市光町一区公民館

【公民館優良職員】

渡邊 和孝 氏
豊後高田市草地公民館 館長

安光 哲来 氏
別府市城島公民館 前館長

須藤 里美 氏
大分市坂ノ市公民館 前公民館主事

河野 信治 氏
大分市滝尾校区公民館 前館長

小長 信一 氏
大分市敷戸校区公民館 前館長

【公民館運営審議会委員功労者】

伊東 龍一 氏
大分市坂ノ市公民館

前公民館運営審議会委員長
高橋 康夫 氏

大分市鶴崎公民館
前公民館運営審議会委員

広報コンクール表彰

【公立公民館報の部】

優秀賞
日出町中央公民館

「公民館報 つどい」
大分市坂ノ市公民館

「ふれあい」
別府市朝日大平山地区公民館

「朝日大平山地区公民館報」
佐伯市弥生地区公民館

「弥生地区公民館だより やよい」
日田市夜明公民館

「公民館だより よあけ」
大分市植田校区公民館

【自治公民館報の部】

優秀賞
「公民館だより」
別府市鶴見町公民館

「公民館だより」
別府市火壳公民館

「館報 ほのめ」
別府市西野口町公民館

「公民館だより」
別府市青山町公民館

「青山町広報」
学習資料の部

津久見市公民館
「あなたの文集津愛大学(高齢者学級)」

優良賞

公益社団法人全国公民館連合会表彰

【永年勤続職員表彰】

飯除 博美 氏
宇佐市院内中央公民館 前生涯教育専門員

【優良職員表彰】

首藤 直喜 氏
大分市南大分公民館 前館長

平成25年度 事業(案)

【大分県公民館連合会】

大分県公民館連合会総会
期日：平成25年5月15日(水)
場所：県立社会教育総合センター(別府市)

【大分県公民館新任職員研修会】

大分県公民館新任職員研修会
期日：平成25年6月13日(木)
場所：県立社会教育総合センター(別府市)

【大分県公民館長・主事研修会】

大分県公民館長・主事研修会
期日：平成25年7月12日(金)
場所：県立社会教育総合センター(別府市)

【第64回大分県公民館研究大会】

第64回大分県公民館研究大会
期日：平成25年10月23日(水)
場所：国東市 アストくにさき

【大分県公民館連合会表彰※】

大分県公民館連合会表彰※
期日：平成25年6月(推薦依頼予定)

大分県公民館連合会広報コンクール※

期日：平成25年6月(通知予定)
※表彰式は第64回大分県公民館研究大会の全体会にて行います。

【九州公民館連合会】

第64回九州地区公民館研究大会福岡大会
期日：平成24年8月29日(木)～30日(金)
場所：福岡県福岡市 福岡国際会議場等

【全国公民館連合会】

第35回全国公民館研究集会inふらの北海道
期日：平成25年10月17日(木)～18日(金)
場所：北海道富良野市 富良野文化会館等

編集後記

人と人が何気なく立ち話：「ちょっとした時間に、身近な困りをどう解決したらいいか?」こう解決してみたら?という話がある。こちでなされ、それが形となり「まち」がつくられていました。しかし、最近ではそのような場面はあまり見られなくなつたという声を聞きます。こんな時代だからこそ、あえて意図的にみんなでお話する場を作り出すこと、人と人が交流する機会を設けることが必要となつてきているのではないのでしょうか。私たち公民館職員も、そして地域の人も。ぜひ、皆さんの周りでも熟議をやってみませんか。新しい「何か」が必ず生まれてくると思います。(な)